

滋賀縣尋常	中學校藏書	部類	冊號	記號	冊數
		雜	1		1

近世畸人傳

二

厂七四

281  
47  
Vol 2











不<sub>レ</sub>をい<sub>レ</sub>ば母<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>な<sub>レ</sub>す<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>し<sub>レ</sub>ば<sub>レ</sub>尚<sub>レ</sub>奇<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>感<sub>レ</sub>して<sub>レ</sub>さ<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>誦<sub>レ</sub>ら<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>

僧鐵眼

僧鐵眼津光此は國平取寺末下のちおせは改  
々書しありしがそは彼名徳元才の人もも格ふり  
之位一歩のち或其のそは美樂らふおちり本庵  
禪師と後そそあるのちるや一とそは面せなる  
とそりて美樂しふり格定て師のちとそらふ  
了<sub>レ</sub>成<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>果<sub>レ</sub>して<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>な<sub>レ</sub>す<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>し<sub>レ</sub>ば<sub>レ</sub>尚<sub>レ</sub>奇<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>感<sub>レ</sub>して<sub>レ</sub>さ<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>誦<sub>レ</sub>ら<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>

ち<sub>レ</sub>成<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>果<sub>レ</sub>して<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>心<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>な<sub>レ</sub>す<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>し<sub>レ</sub>ば<sub>レ</sub>尚<sub>レ</sub>奇<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>感<sub>レ</sub>して<sub>レ</sub>さ<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>誦<sub>レ</sub>ら<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>





米屋と石舟

横濱國介村の里、米屋と石舟といふ儒者に  
 て善徳とけしから富豪なりと毎僕一主とて、自造湖  
 の事とちせふ。おこしけしとて、富り、富り  
 へりていまん、徳徳行ふあり、時款族の僕、人  
 名、金、る、あ、と、つ、い、持、て、け、り、か、り、と、と、ぬ、く、る、お、い、  
 て、涼、く、陳、り、は、し、有、人、を、け、あ、と、ぬ、き、と、ひ、と、の、あ、い、  
 ぬ、し、び、又、け、里、の、内、に、終、甚、様、お、あ、り、と、い、の、火、災、あ、り、  
 河、一、人、の、難、あ、り、よ、と、お、て、自、と、て、ま、り、お、き、を、て、廣、く、  
 且、又、板、橋、の、水、災、の、と、れ、危、し、と、て、石、橋、を、造、う、る、を、  
 此、の、善、い、ふ、に、お、か、し、と、ま、り、を、ま、り、お、き、と、所、作、り、  
 す、と、い、は、か、り、お、か、り、と、れ、お、い、の、男、女、集、り、と、り、











たりの海防の光を人々を導くは任事あり任事ありとて  
その保よとてしつとて海防の備えをせよとて  
あつてはるるをたてよとて人々を導くは任事あり  
とてあつてはるるをたてよとて人々を導くは任事あり  
とてあつてはるるをたてよとて人々を導くは任事あり  
とてあつてはるるをたてよとて人々を導くは任事あり  
とてあつてはるるをたてよとて人々を導くは任事あり  
とてあつてはるるをたてよとて人々を導くは任事あり  
とてあつてはるるをたてよとて人々を導くは任事あり  
とてあつてはるるをたてよとて人々を導くは任事あり  
とてあつてはるるをたてよとて人々を導くは任事あり

終る元弘元年、甲午六月の事、人皆を以て治へばとて  
あつてはるるをたてよとて人々を導くは任事あり  
とてあつてはるるをたてよとて人々を導くは任事あり  
とてあつてはるるをたてよとて人々を導くは任事あり  
とてあつてはるるをたてよとて人々を導くは任事あり  
とてあつてはるるをたてよとて人々を導くは任事あり  
とてあつてはるるをたてよとて人々を導くは任事あり  
とてあつてはるるをたてよとて人々を導くは任事あり  
とてあつてはるるをたてよとて人々を導くは任事あり  
とてあつてはるるをたてよとて人々を導くは任事あり  
とてあつてはるるをたてよとて人々を導くは任事あり















其の傳はるる年をたしめしるは、其の年をたしめしるに、  
一、今晴慶のついでに、いふをたしめしるに、  
一、

數首あるが中、すうとて、  
一、  
一、  
一、  
一、  
一、  
一、  
一、

其の傳はるる年をたしめしるは、其の年をたしめしるに、  
一、今晴慶のついでに、いふをたしめしるに、  
一、

數首あるが中、すうとて、  
一、  
一、  
一、  
一、  
一、  
一、  
一、

其の傳はるる年をたしめしるは、其の年をたしめしるに、  
一、今晴慶のついでに、いふをたしめしるに、  
一、  
一、  
一、  
一、  
一、  
一、



其の如くは、蘭人の如くは、自國に地を  
無しが、其の如くは、其の如くは、

○周の法は、考和婦は、同義士、大に、彼等、其の如くは、

義の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、

は、才九十年、其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、

其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、

其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、

其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、

其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、

其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、

其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、

其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、

其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、

其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、

其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、

其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、

其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、

其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、

其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、

其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、

○其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、

其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、

其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、

其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、其の如くは、



۱۱  
 ۱۲  
 ۱۳  
 ۱۴  
 ۱۵  
 ۱۶  
 ۱۷  
 ۱۸  
 ۱۹  
 ۲۰  
 ۲۱  
 ۲۲  
 ۲۳  
 ۲۴  
 ۲۵  
 ۲۶  
 ۲۷  
 ۲۸  
 ۲۹  
 ۳۰  
 ۳۱  
 ۳۲  
 ۳۳  
 ۳۴  
 ۳۵  
 ۳۶  
 ۳۷  
 ۳۸  
 ۳۹  
 ۴۰  
 ۴۱  
 ۴۲  
 ۴۳  
 ۴۴  
 ۴۵  
 ۴۶  
 ۴۷  
 ۴۸  
 ۴۹  
 ۵۰  
 ۵۱  
 ۵۲  
 ۵۳  
 ۵۴  
 ۵۵  
 ۵۶  
 ۵۷  
 ۵۸  
 ۵۹  
 ۶۰  
 ۶۱  
 ۶۲  
 ۶۳  
 ۶۴  
 ۶۵  
 ۶۶  
 ۶۷  
 ۶۸  
 ۶۹  
 ۷۰  
 ۷۱  
 ۷۲  
 ۷۳  
 ۷۴  
 ۷۵  
 ۷۶  
 ۷۷  
 ۷۸  
 ۷۹  
 ۸۰  
 ۸۱  
 ۸۲  
 ۸۳  
 ۸۴  
 ۸۵  
 ۸۶  
 ۸۷  
 ۸۸  
 ۸۹  
 ۹۰  
 ۹۱  
 ۹۲  
 ۹۳  
 ۹۴  
 ۹۵  
 ۹۶  
 ۹۷  
 ۹۸  
 ۹۹  
 ۱۰۰

۱۰۱  
 ۱۰۲  
 ۱۰۳  
 ۱۰۴  
 ۱۰۵  
 ۱۰۶  
 ۱۰۷  
 ۱۰۸  
 ۱۰۹  
 ۱۱۰  
 ۱۱۱  
 ۱۱۲  
 ۱۱۳  
 ۱۱۴  
 ۱۱۵  
 ۱۱۶  
 ۱۱۷  
 ۱۱۸  
 ۱۱۹  
 ۱۲۰  
 ۱۲۱  
 ۱۲۲  
 ۱۲۳  
 ۱۲۴  
 ۱۲۵  
 ۱۲۶  
 ۱۲۷  
 ۱۲۸  
 ۱۲۹  
 ۱۳۰  
 ۱۳۱  
 ۱۳۲  
 ۱۳۳  
 ۱۳۴  
 ۱۳۵  
 ۱۳۶  
 ۱۳۷  
 ۱۳۸  
 ۱۳۹  
 ۱۴۰  
 ۱۴۱  
 ۱۴۲  
 ۱۴۳  
 ۱۴۴  
 ۱۴۵  
 ۱۴۶  
 ۱۴۷  
 ۱۴۸  
 ۱۴۹  
 ۱۵۰  
 ۱۵۱  
 ۱۵۲  
 ۱۵۳  
 ۱۵۴  
 ۱۵۵  
 ۱۵۶  
 ۱۵۷  
 ۱۵۸  
 ۱۵۹  
 ۱۶۰  
 ۱۶۱  
 ۱۶۲  
 ۱۶۳  
 ۱۶۴  
 ۱۶۵  
 ۱۶۶  
 ۱۶۷  
 ۱۶۸  
 ۱۶۹  
 ۱۷۰  
 ۱۷۱  
 ۱۷۲  
 ۱۷۳  
 ۱۷۴  
 ۱۷۵  
 ۱۷۶  
 ۱۷۷  
 ۱۷۸  
 ۱۷۹  
 ۱۸۰  
 ۱۸۱  
 ۱۸۲  
 ۱۸۳  
 ۱۸۴  
 ۱۸۵  
 ۱۸۶  
 ۱۸۷  
 ۱۸۸  
 ۱۸۹  
 ۱۹۰  
 ۱۹۱  
 ۱۹۲  
 ۱۹۳  
 ۱۹۴  
 ۱۹۵  
 ۱۹۶  
 ۱۹۷  
 ۱۹۸  
 ۱۹۹  
 ۲۰۰











































此のいさすつひの言の白く一せ并首を竟のふ  
 所成辨しては、於今并の賜を辨じたまはるるを  
 媛もりのたぐも晴きるちゆるとて、生るる地は  
 居て自煉えらむとて、予ははむのまゝとて、自  
 辨じり、結つ巻のあまひくも、縁の意は、  
 ばらばら人のまらよとて、下も其ちつくり、  
 ずして、まゝのまゝのまゝ、  
 と、結せは、あつたつと、後肥前のもつと、  
 ち、十四年、所没して、は、  
 と、  
 今、  
 て、  
 ぞ、  
 は、  
 て、  
 伊、  
 其、  
 け、  
 う、  
 運、  
 下、  
 よ、  
 自、

ぞ、  
 は、  
 て、  
 伊、  
 其、  
 け、  
 う、  
 運、  
 下、  
 よ、  
 自、



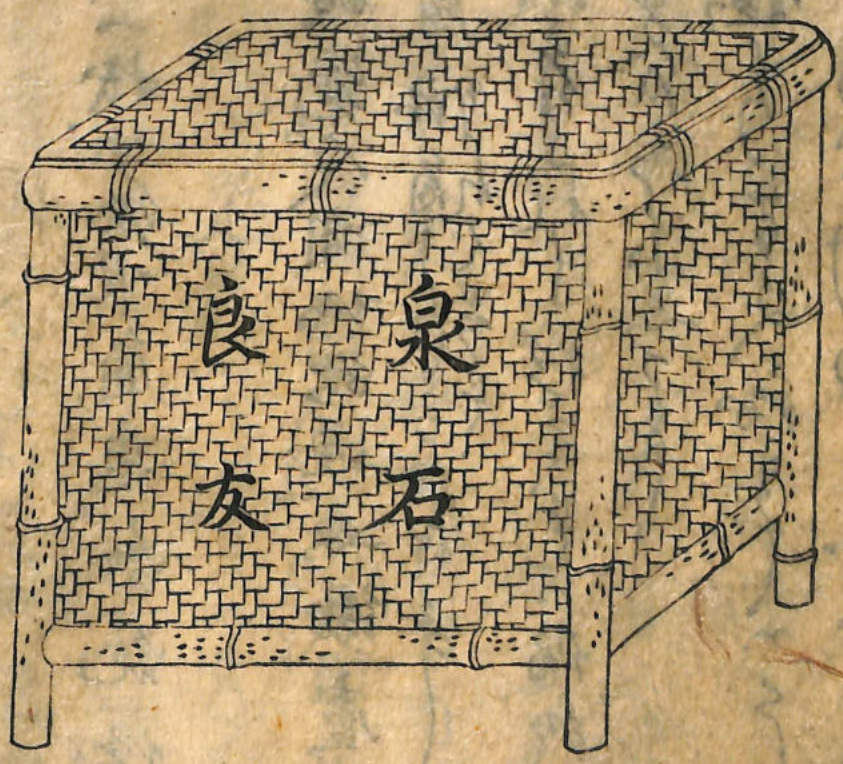




蕭葭堂所藏賣茶翁茶具圖八品

# 都籃

百拙題  
高一尺二寸五分  
橫一尺

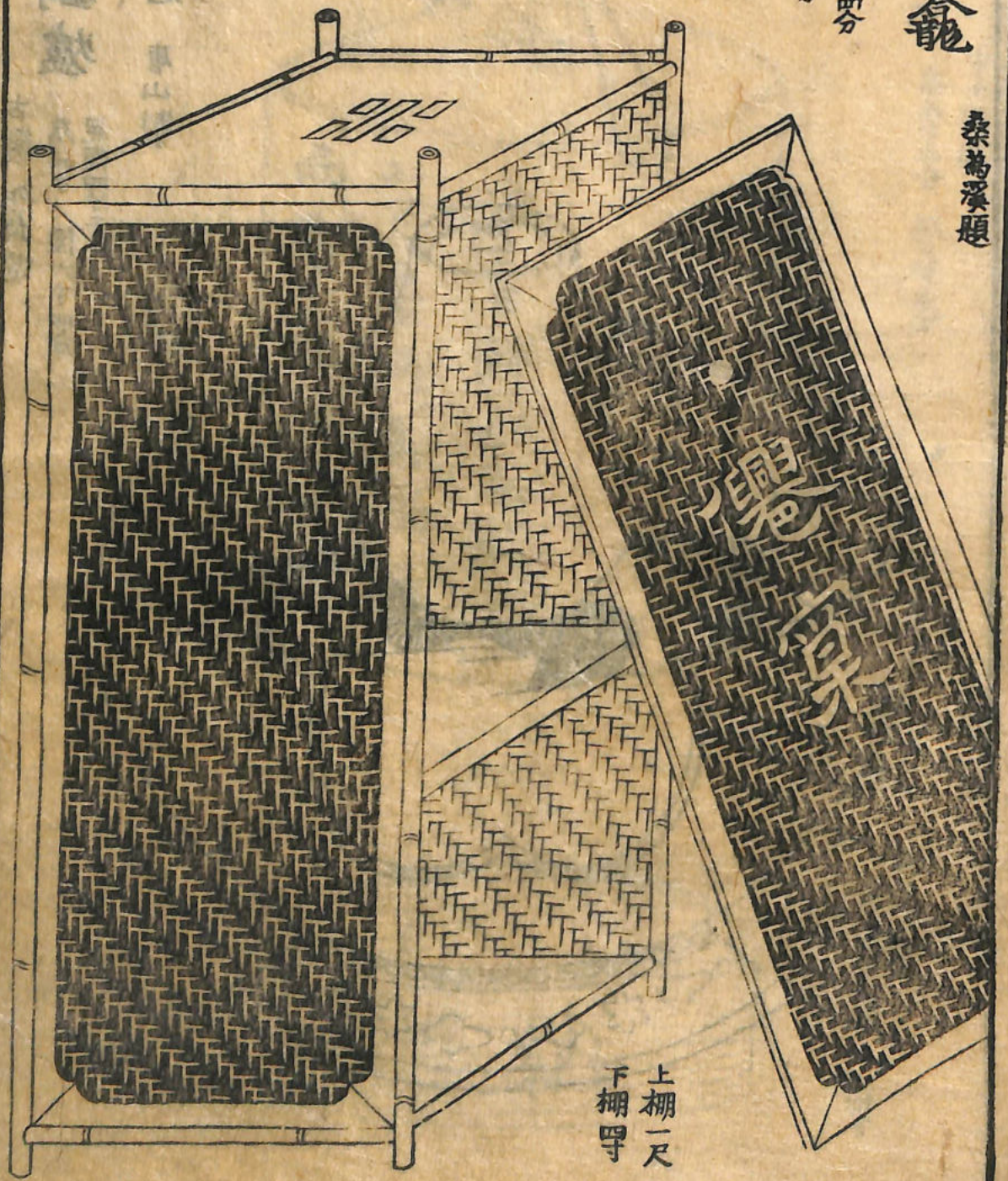


良泉  
友石

# 爐龕

高一尺六寸四分  
方八寸三分

桑為溪題



泉石  
良友

上棚一尺  
下棚四寸



黃銅爐

古製加長造

高四寸 徑六寸四分  
足徑四寸二分

急燒

唐山製



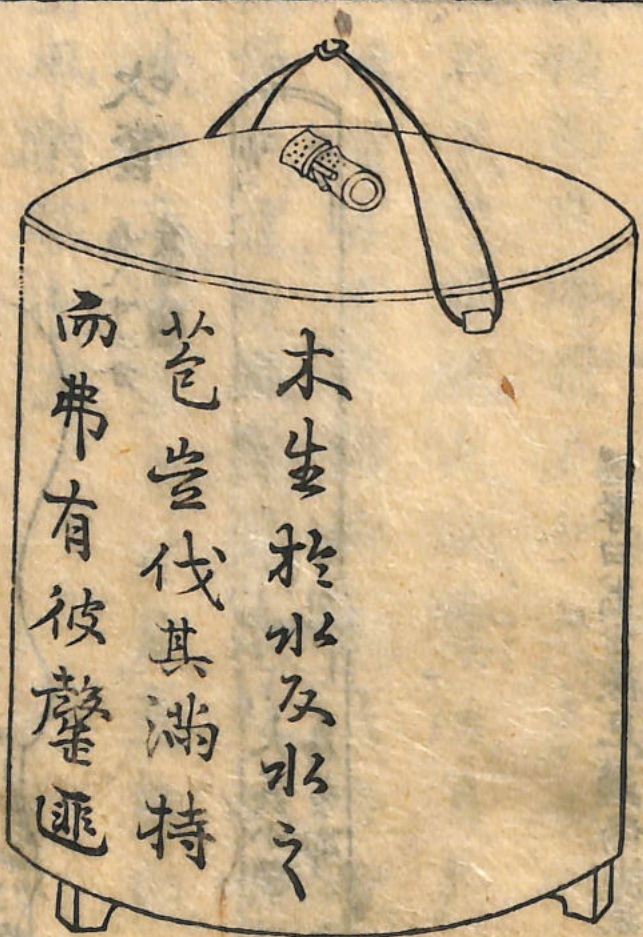
欽命

式八五五  
高六寸四分

注子

宇士新銘

高五寸五分 徑四寸

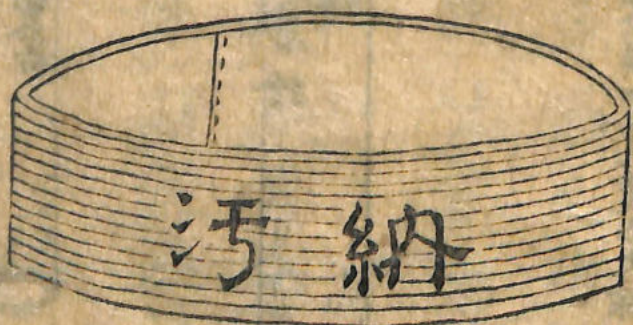


木生於水及水之  
以苞豈伐其滿持  
而弗有彼罄逐

建水

終南銘

高一寸五分半 徑四寸



汚納

卷八 八十一

三六



瓢杓

竹柄 長寸  
芙蓉書

吹管

長八寸二分  
蕉中題



大其小頭其微汝其勇於  
為者耶 東湖散人題

將來割破成雙管

思孝曰翁肖像見翁偈語故不贅今取圖茶具者其燒心之餘  
與摸造俱藏浪華木世肅之家云

自贊三首

這瞎漢漫抄風顛，早歲入釋，半呼冬禪，百城烟水。  
 遠探要津，熱唱痛棒，掌裏笑，半歷盡，雪霜自被不了。  
 顛頑面皮，憐憐多少，老來此分為賣，菜氣疎博飯。  
 樂在其中，煮通天，個鸞渡月，花若人，蒲味藷口，蹉過。  
 因憶昔年，王大傳，依然，子古少，知素。  
 鬢猶照雪，疎髮拳髯，瘦杖扶老，鶴鬣，菽食，具益為法。  
 獨步，此來，賣菜，牛斗，足養，衰躬，非儒，非釋，又非道。  
 箇風顛，瞎亮，蒜。  
 箇賣菜，漢籃裡，維何，無底，梳子，鞏縣，菜瓶，為糊。  
 賣菜，緒方，用力，是大，得錢，却微，箇擔板，吐。  
 自贊，偈。



夢幻生涯夢幻了知幻化絕親疎貪榮為乘猶是  
退步一瓢還存餘命年心頓悟自寂五心事上境都  
如吾儕為得體斯意廓為胸襟固太虛

偶成 覺少年，彈流  
餘氣，一筆

太傅西來難却去，十年為業案來新。晚頭無力金林  
起，漫叫黃葉莫失真。

仙窠燒却語 仙窠，氣具，藍，能  
不以，驚，意，業，也

我從來孤貧，無地無難。汝佐輔，吾嘗有年。來伴春山  
秋水，歲鬻松下竹陰。以故，敏於無缺，保得八十餘歲。今  
已老邁，無力干用。汝心斗藏身，將終天年。却後，汝辱  
信之平，汝汝恐有遺恨。是以賞汝，以火。既三昧直下，向  
火焰裏轉身去。轉身一句，且汝何良久之。云，劫火洞然。

未盡青山依舊，白雲中便付西丁。

乙亥九月初四 八十一 蔣高遊外

江村專齋 附別齋

專齋江村氏諱宗具，倚松庵。年四十九，其居  
古寺，松餘樁，ありける故なり。祖業基ハ梅木の石  
乃城よりして、落城の後、宗具より、宗具より、宗具より、  
互敬、いふ、樹、不、修、り、又、既、立、ち、如、歌、連、平、と、好、む、  
了、聞、善、所、伎、は、名、あり、宗、具、ゆ、く、宗、業、あり、  
か、り、て、医、氏、多、ぶ、始、加、藤、肥、後、彦、  
森、蘇、休、彦、は、た、く、身、を、修、り、壽、百、  
後、水、尾、上、皇、仙、御、を、  
勅、回、あり、







たよりふらふに儒服儒巾代制... 院中小書と後疾  
此病あり一付も勘解由小治成とて一人書く中山より  
浙視とて一病あり一徳士の如月とて小病より自年歳  
昔書懐の詩書堂の人彼子孫より海よりと九一子  
子生年とてんふは故より

少小涉経史、性氣聰詞章、宿儒時濟、  
是是丈人行、生年所畏敬、此日皆既亡、  
後生何寂美、聖学將榛荒、長安歲新戶、  
亡人代商量、所好與世乖、為愚又為狂、  
遭遇子古少、無悔特何傷、幸世升斗懸、

從意自徜徉、請託絶權勢、行謁也朝堂、  
丹花屬我去、吟喙習為常、又無他病患、  
志古從望法、眼精耐誦讀、足力涉澗園、  
車馬不須駕、冠蓋何假張、生理又略足、  
不用求皇、寒暑給裘葛、朝晡有糟糠、  
回首下世裏、比屋屬低昂、老不足衰廢、  
亦嘗有殷周、悲貧兒女德、豈入丈夫腸、  
梅蘂欺雪文、柳條映春光、一棠此未盡、  
依然為迎新陽





西生永濟

漢海濱生郡中の里の浪士永濟ハ物生と稱す  
 又河波と稱す一いつるハ法入と家ハ法を以て麻  
 生と稱す一莊月精物師といつるあはれつゝハ女  
 中ハ海生知雨のとも喜物名ふる乞食唄をある  
 といふ是も是も法物と我れともうへは是も知雨ハ永  
 濟と改めしといふは一人ハ海生并屋一稱す  
 其海生の事也ハ中ハ雨辰とる後其まそののゆゑに  
 當日申ふをよむ花  
 人の神さるるといふハ物と傳へ給ふハ一不固く辭す  
 といふは一人ハ一いふは一人ハ一我中ハ一まらりやうといふ  
 といふは一人ハ一いふは一人ハ一海生といふは一人ハ  
 一人といふは一人ハ一いふは一人ハ一著せる和漢詞源集ハ











とるものありて、とて并成に、  
名おき、金ころり、  
おのや、  
こり、

青木之針

青木之針、  
同用、  
のり、  
き、  
お、

横河院、  
辰、

